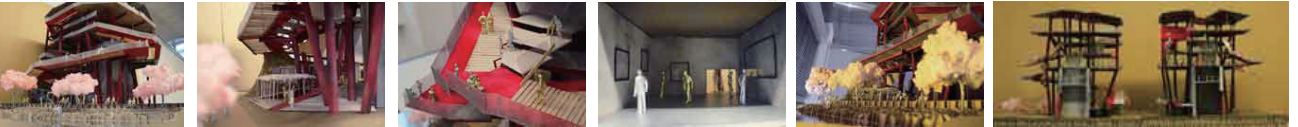
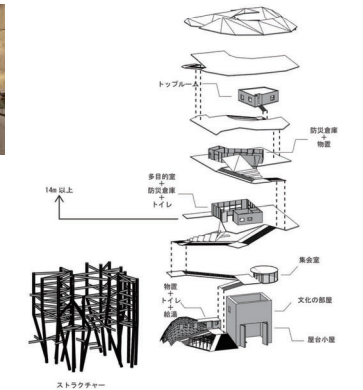
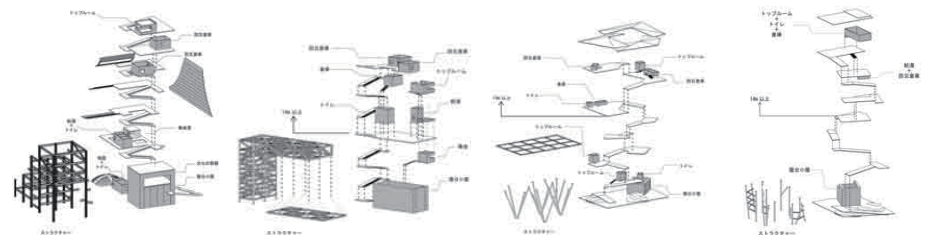
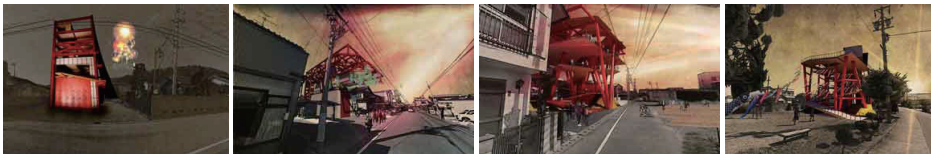
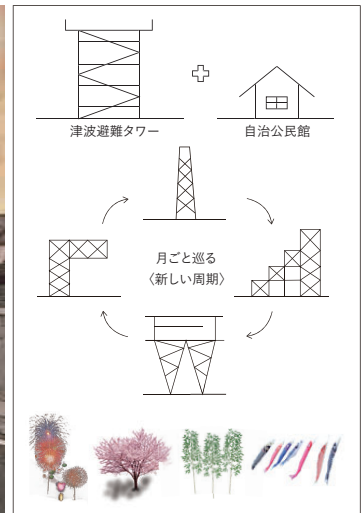


塔は旧来の作法にのっとる

東京工芸大学 工学部 建築学科
名前 加藤 大基



設計主旨 concept

津波避難タワーと自治公民館を複合化したタワー建築の提案を行う。場所は静岡県牧之原市の静波地区。既存の津波避難タワーと自治公民館の分布から、新たに配置を検討し、今回は11箇所ある中から5箇所をピックアップして設計を行った。

まず計画に至る経緯として、現在地方の公共建築のストックを減らしていこうとする動きがある中、唯一更新され続ける自治公民館のデザイン、津波の被害を想定して計画されていない点に問題があると感じた。津波避難タワーに関しても、住宅地に建つ無骨で災害時にしか利用されないなどという疑問があった。

そこでまず、自治公民館の機能を一度解体し、タワーに組み込む形で再構築することとした。同時に避難フロアの面積、地上からの高さ、所要室の浸水可否などの配置を再検討した。

さらに、各タワーそれぞれ個性のあるプログラム、デザインが検討され、全体としてそのまちの象徴となるよう計画を行った。

